

生ら

TAKUSUI
No. 727

5

May. 2017

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



生さわらVS生しらす 前哨戦 (淡路市)

「生さわら VS 生しらす」イベント 始まる!

JF・系統団体の新人職員 ご紹介

《今月の海上安全標語》 ～ 一度、見直してみても… ～

普段の操業のなかに潜む危険は分かりにくいものです。

過去のヒヤッとした体験や、他人の体験を聞いて見直してみるのもいいかもしれません。

「えっ!まさか!」こんなところに 危険あり では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「直しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

イカナゴの生売り

兵庫県漁業協同組合連合会企画経営管理室室長 **柴田 昌彦**



平成21年、イカナゴが大不漁に見舞われ、小売値が1kg当り3,000円に達した。それでも、スーパーの店頭には長蛇の列ができ、イカナゴを待ちわびるお客様で店が溢れる様子が、連日マスコミに報道された。

翌年のイカナゴ漁も、水揚量が1万トンに届かない不漁の年となったが、前年のような騒ぎは無く、需要の減退を実感する年になった。

あれから、8年。水揚量が2万トンを超えた平成23年を除き、本県では、毎年1万トン前後の厳しい水揚げ状況が続いている。伊勢湾では昨年引き続き、今年も休漁を余儀なくされた。イカナゴ資源の減少は兵庫だけに留まらない。

昭和62年、漁連に就職して3年目の春に、私はイカナゴ漁の現場で仕事をすることになった。当時解禁直後のイカナゴは、カナギチリメンや釜揚げなどの加工原料に利用され、7cmを超えるようになると、養殖用の餌料として販売された。この頃のイカナゴの生売りは、神戸や明石とその周辺地域で、限定的に行なわれていた。

当時県漁連では、関係組合や加工業者と相談の上、新子の体長が加工に向かなくなる彼岸明けまで、鮮魚出荷を見合わせていた。桜が咲く川沿いの道を、餌サイズに成長したイカナゴを満載して生協の店舗に届けたが、販売量が50カゴ/日を越える店舗へは、1日に何度もピストン配送した。

一方その頃西播地域では、生イカナゴ流通は行なわれておらず、仲買業者も興味を示さなかった。そこで、昭和60年に開所した県漁連播磨支所（平成16年閉所）では、県の南西地域にも「くぎ煮文化」を広げるため、平成4年から妻鹿漁港でイカナゴの生売りがスタートしたことを契機に、地元漁協、漁協婦人部（女性部）等と協力して、年間50回を越える「くぎ煮料理教室」を、何年にもわたって展開した。こうした取り組みは、イカナゴの鮮魚流通が県下全域へ広がるきっかけの一つとなった。

加工業者からは、小型サイズの原料を求める声が強強い一方で、近年は解禁と同時に生売りがスタートする状況が定着して、小型のカナギチリメンは姿を消し、釜揚げは高級品となり、くぎ煮を炊く業者が増加した。

生イカナゴの小売現場では、価格が1,000円/kgを超えることが当たり前になり、一人当たりの購入数は頭打ちで、複数回の配送を求める店舗はほとんどない。平成29年のイカナゴ漁は、予想を超えた不漁によって、平成21年以上に浜値が暴騰し、小売価格は4,000円/kgに達した。

イカナゴ資源の減少の原因は、温暖化と貧栄養だと言われている。昨年はマガゴも不漁で、内海の主力魚種が危機的状況を迎えている。

永遠のテーマである「豊かな海」を取り戻すため、限られた時間の中で努力を続けていきたい。

CONTENTS

No.727 May. 2017

- 2 ようこそ
- 3 平成29年度 県功労者表彰
命を守る運動担当者会議 開催
- 4 平成29年度 のり共販終了
- 5 “生さわら VS 生しらす”前哨戦が行われる
- 6 系統・漁協新人職員紹介
- 8 神戸海上保安部からのお知らせ
海難事故をなくそう
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「生さわら VS 生しらす前哨戦」(淡路市)

淡路島の生しらす丼と生さわら丼が4月26日よりFacebook上で対決することを受けて行われた「生さわら VS 生しらす」前哨戦。

春の清々しい天気のもと、淡路サービスエリアに立ち寄った観光客らを相手に、PR合戦を繰り広げました。生しらす丼に携わってこられたJF淡路島岩屋 岸本 保さんは「シラスだけでなく、淡路の魚を食べてもらえるきっかけになれば」と話され、2つの丼が生み出す相乗効果に期待を寄せられました。

生さわら丼・生しらす丼、あなたはどちら派？

平成29年度 県功労者表彰

～水産関係から3名が受賞～

兵庫県は5月3日(水)、「平成29年度県功労者表彰」の受賞者の発表を行い、水産関係から3名の方が選ばれました。なお、授賞式は5月17日(水)に神戸市中央区の県公館で行われました。受賞されました方は次の通りです。

【農林水産功労】

小溝 政二 様

(J F 育波浦代表理事組合長)
(日本漁船保険組合 兵庫県内海支所 運営委員)



【農林水産功労】

橋本 幹也 様

(J F 江井ヶ島代表理事組合長)
(なごさ信用漁業協同組合連合会 代表幹事)



【農林水産功労】

大河 優 様

(J F 赤穂市代表理事組合長)
(なごさ信用漁業協同組合連合会 経営管理委員会 委員)



「命を守る運動担当者会議」を開催 ～新たに但馬地区関係者も交えて開催～

「命を守る運動海上安全講習会」は、県内J Fと系統5団体(J F兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・日本漁船保険組合兵庫県内海支所・ひょうご豊かな海づくり協会・兵庫県水産振興基金)が関係行政機関の協力を得て行っており、毎年、各団体の担当者が集まり、今後の活動等について話し合っています。

今年度は4月25日(火)に水産会館で行われ、神戸運輸監理部、神戸・姫路の海上保安部、県水産課の担当者に加え、今年から舞鶴海上保安部、日本漁船保険組合但馬支所の担当者も加わり、今後の活動についての意見交換を行いました。

会議では、前年度の活動実績や海難事故の発生状況について報告があったほか、来年度の活動計画について話し合われました。また、集まった担当者から、A I Sの普及方法や浮力カッパの型式承認取得に向けた進捗状況、海技大学校でのシミュレーター講習の

開催回数など、新たな取り組みの提案も交えた活発な意見交換が行われました。



平成29年度 のり共販終了 ～今漁期は約14億4,000枚を生産し終漁～

今期のノリ養殖を締め括る共販となる第14回乾のり入札会が、5月9日（火）、JF兵庫漁連の流通センター（播磨町）において行われ、約112名（44社）の出席がありました。この日の入札会には約6,500万枚が上場され、共販金額は6億6,483万円（平均10・22円）となりました。

今漁期は、暖冬の影響でノリ網張込み作業の遅れが生じたことや、年明けから3月にかけて雨がほとんど降ら



年以上の生産金額が達成できたのは、ノリ商社の方々のご支援とご協力のおかげ」と入札商社の皆様へ感謝を示し、「今漁期も発生した色落ち対策として、県内下水道処理場の管理運転の拡大に努め、瀬戸内海の再生に向け、今後もより良い兵庫のノリづくりに努力する」と話しました。続く、兵庫県海苔入札指定商組合の松谷晃理事長（松谷海苔(株)代表取締役社長）は「相場感が難しく、ノリ商社にとっては厳しい

ず、大型珪藻の発生も伴い広範囲での色落ちも見られましたが、全国的な秋芽の不作等の要因により中間等級の価格が大きく伸び、単価面で大きく支えられ、生産を継続したまま終漁を迎えました。今漁期とおしての兵庫県での共販は生産枚数14億4,074万枚（昨年比：5,915万枚減）、共販金額167億7,771万円（昨年比：9億4,848万円増）で、平均単価は平成になって以降最高の11・61円、共販金額が160億円を超えるのは、平成14年度以来となりました。（別表参照）

最終共販の挨拶に立ったJF兵庫漁連 田中稔彦参事は、今漁期を振り返って「生産枚数は昨年を下回ったが、生産金額は昨年を上回り、昨



来期も順調な生産・販売されることを願います



挨拶を行う田中参事

1年であったが、今後もノリの安定生産のためにも頑張っていきたい」と挨拶されました。

平成28年度 兵庫県乾のり共販結果

	共販年度	共販枚数	共販金額	平均単価
本県	平成28年	14億4,074万枚	167億7,771万円	11円61銭
	平成27年	14億9,989万枚	158億2,923万円	10円52銭
	平成26年	16億2,274万枚	148億2,394万円	9円12銭
全国	平成28年	74億6,324万枚	997億8,724万円	13円10銭
	平成27年	73億6,863万枚	850億0,359万円	11円54銭
	平成26年	80億6,838万枚	847億2,589万円	10円50銭

（平成29年5月10日現在、最終共販（宮城・11日開催）は含まず）

生さわら VS 生しらす 前哨戦が行われる

淡路SAでPR対決

淡路島で販売される生しらす井は、
JF淡路島岩屋と北淡路ブランド推進

協議会が取り組みをはじめて7年目を迎えます。2014年には約83万食を売り上げた人気井で、今年



は100万食を目指しています。一方、JF五色町、洲本市などで作る「淡路島サワラ食文化推進協議会」は、サワラを使った「づけ井」や「茶飯」を「淡路島の漁師飯」として商品化し、取組み開始から3年となる今年は島内29店舗まで拡大し提供しています。

この2つの井が4月26日(水)～6月30日(金)の間、これらの井を提供する島内63軒の飲食店等で味わった人たちに、公式フェイスブックで「いいねー」ボタンを押してもらい、その数を競うイベント「生さわら VS 生

しらす」で対決します。そこで、4月22日(土)淡路サービスエリアにおいて「対決の勝敗を予想するせつかちな企画」として、立ち寄った観光客を対象にイベント前哨戦が行われました。

まず、JF淡路島岩屋 東根 壽組合長が「鮮度にこだわっており、甘みと触感が特徴。淡路島で獲れるシラスを是非味わってほしい」と生しらす井を大きな声でPRされ、一方、JF五色町 福島 富秋組合長は水揚げされたサ



生しらす井の美味しさを話す東根組合長

ワラを手に「生サワラは馴染みがないかもしれないが、淡路島の食文化のひとつ。是非食べて頂きたい」と訴えました。これを聞いた観光客は「おいしそうー」「食べてみたい!!」と思った方にシールを張って投票しました。

結果は、抜きつ抜かれつの大接戦で、最終投票時には同点となり、投票人数を増やした延長戦でも同点、最後に1名だけ募集したところ、79対78で生しらす井の勝利となりました。

前哨戦は生しらす井の勝利となりましたが、本番の対決はいかに!



福島組合長はサワラを手にPR

新たに採用された 職員の皆さんを ご紹介します

JF坊勢

業務部（資材担当）

うえだ りゅうき
上田 竜輝

高校を卒業したばかりで分からないことも多いですが、地元の方の役に立てるよう一生懸命頑張りたいと思っています。



JF但馬

竹野支所 庶務課兼業務課

なが たかひろ
永田 貴大

前職で魚の加工技術を学んできました。その知識を活かし、刺身・干物などを作りたいと思っています。そして、自分の知らないことや分からないことを先輩方に聞き、新しい知識を増やし、これからの地元の産業、そして本組合に貢献していきたいです。



JF坊勢

なぎさ信漁連坊勢支店出向（総務部付）

ながまつ わたる
永松 航

学生の時に、魚類や海草の養殖、資源動態について学ぶ機会があり、それらは産業の基盤である漁業者の方々がいるこそのもだと感じました。漁協で働くにあたって、はやく仕事を覚え、漁師の皆様のお役に立てるよう努めていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。



JF兵庫漁連

仮屋給油所

うえの たかのぶ
上野 貴庸

「自分らしさを忘れない志」を持って、周囲から信頼される人材になれるよう、日々、業務に取り組んでいきます。



JF五色町

会計担当

またの ひさこ
又野 弥子

1年間の雇用期間を経て、この1月より職員として勤務しております。まだまだわからない事ばかりですが、幅広い分野で組合員さん方の“縁の下の力持ち”的存在になれるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



JF兵庫漁連

淡路油槽所（津名油槽所）

ふじえ のぶふさ
藤江 宣房

一日でも早く淡路油槽所の戦力となるように、精一杯頑張ります。

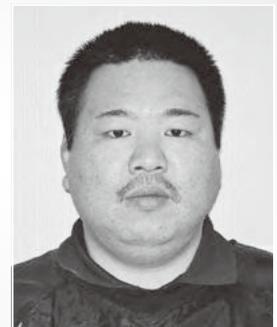


JF但馬

香住支所 直売課兼購買課

たにぐち ふみひこ
谷口 文彦

4月から組合の正職員になりました。明るく、元気に一生懸命仕事に取り組みたいです。まだ新人なので、ご指導の程よろしくお願ひします。



JFマリンバンクなぎさ

但馬支店

もり やま ま み
守山 真美

昨年4月から但馬支店に勤務しています。入組してから1年が経ちました。まだまだ勉強不足で迷惑をかけることもあります。周りの方のサポートのおかげで2年目を迎えることが出来ました。これからも明るい対応を心掛け、日々努力し成長していけるように頑張りますので、よろしくお願いいたします。



系統・漁協 新人職員紹介

JFマリンバンクなぎさ

東淡営業店

やな がわ あ ゆ み
柳川 亜由美

漁業に関して、まだまだわからないことがあります。職場のみんなと連携をとって日々前向きに業務に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



JFマリンバンクなぎさ

淡路島支店

い づつ ひろ き
井筒 弘貴

6月20日より雇員として、10月1日より職員として勤めさせていただいております。まだ1年にも満たない未熟者ですが、1年1年成長していけるよう努めていきますので、よろしくお願いいたします。



兵庫県漁業共済組合

事業部業務課

ふじ はら さと し
藤原 聡志

卒業してから4月までの間、気が緩んでいるのか、小さなミスを何度もしています。

気を引き締め、ミスのないよう丁寧に仕事に取り組んでいきたいです。



JFマリンバンクなぎさ

浜坂営業店

なか た ま ゆ
中田 真佑

まだまだ分からないことが多いですが、皆様のお役に立てるよう一所懸命に頑張ります。

よろしくお願いいたします。



日本漁船保険組合 兵庫県内海支所

賠償審査部

いま い けん た
今井 健太

平成28年の9月より、兵庫県内海漁船保険組合（現日本漁船保険組合兵庫県内海支所）に入組しました。まだまだ分からないことばかりで、不慣れな点が多くありますが、じっくり仕事をこなし覚えていこうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



JFマリンバンクなぎさ

東淡営業店

にし お み ね こ
西尾 みゑ子

なぎさ信漁連の一員になれたことに身の引き締まる思いを感じています。

一日でも早く一人前の社員になれるよう努力して参ります。

よろしくお願いいたします。





シラス漁期も各自の自覚で海難防止!

神戸海上保安部
からのお知らせ

平成28年は漁船の事故が9隻発生（うち衝突7隻、海中転落による無人漂流2隻）
しています。（平成27年は1年間で4隻発生）
漁網の切断事故は、転覆海難につながる恐れがあります！！

- ・漁船海難は衝突が7隻と多く、衝突の殆どが見張り不十分でした。
- ・海中転落では、残念ながら2名の方が亡くなりましたが、いずれも救命胴衣未着用でした。



- ・航行中のみならず操業中も常時適切な見張りをお願いします。
- ・接近する船舶があれば早めの避航をお願いします。
- ・手船を活用して通航船に漁網の位置を知らせる等、安全操業に十分留意してください。
- ・自身はもちろん、家族のためにもライフジャケットを着用して下さい。

スマートフォン用二次元コード



海の安全情報では、気象現況、気象警報・注意報等、緊急情報
海上安全情報、ライブカメラ等の情報が見れます。



海難事故をなくそう!

ライフジャケットを 着用しよう!



ライフジャケット（膨張式）
モデル：JF坊勢 前田 恵吾さん（大輪田塾12期生）

膨張式ライフジャケットは定期的なメンテナンスが必要です!

最近ではポンペが下部に配置されたタイプもあり、首回りが楽になっています。

是非、着用してください

“平成30年2月ライフジャケット着用義務化はじまる!”

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。

浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。

まだお持ちでない方は是非!

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



モデル：JF淡路島岩屋 中山 大輔さん（大輪田塾12期生）

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連のり海藻部資材担当(078-942-9272)までお問い合わせください

お知らせ

平成29年4月6日付で各組合にメールにてお知らせしておりますとおり、兵庫県漁連ホームページより系統団体行事予定表を確認することが出来ます。

兵庫県漁連ホームページ <http://www.hggyoren.jf-net.ne.jp>

会員・職員 をクリックし、会員・職員ページへ移動し、パスワードを入力することで系統団体行事予定表を確認できます。

不詳な点は振興基金までお問い合わせください。 078-919-1331

兵庫のうまいもんをPR ひょうご五国のめぐみ物産展

JAグループ兵庫

JAグループ兵庫は、3月23日(木)に東京・永田町で開催された「ひょうご五国のめぐみ物産展」に参加しました。この催しは、首都圏で兵庫県の農林水産物をPRしようと自民党が党本部前で開きました。イチゴやタマネギ、日本酒など多くの兵庫のうまいもんが勢ぞろいし、人気を集めました。特に、神戸ビーフの試食は開始30分で終了するほど盛況でした。

JAグループ兵庫は米、水菜、レンコン、菜の花、レタス、ヤマノイモなどの新鮮な農産物を販売しました。購入した人からは「兵庫の新鮮な野菜で料理をするのが楽しみ」「どのような調理法があるのか」などの声が聞かれました。

会場には、自民党の二階俊博幹事長や県選出国會議員らが駆け付け、二階幹事長は「財布のひもを緩めて兵庫の農産物の購入を」と呼び掛けました。

また、井戸敏三兵庫県知事が「兵庫県の各地には特色ある農産物があります。試食もたくさん用意しているのでご賞味ください」とPRしました。



◀井戸知事によるPR



▶多くの方が訪れ賑わいました

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

税務・経理を身近に感じ理解を深める

2016年度「兵庫県生協連・ 第15回税務・経理講習会」を開催

3月2日(木)・3日(金)、兵庫県民会館にて、税理士 江藤 俊哉氏、MMコンサルティング 三宅 充氏、西宮市職員生協 統括部長 宮田 正樹氏を講師に迎えて「第15回税務・経理講習会」を開催、4会員生協(3関連会社)の役職員10人が参加しました。

最初の全体講習では、江藤氏より「2016年度税制改正」について、わかりやすく講義いただきました。続いて、三宅氏より「経理担当者の心得」と題して、経理の重要性についてお話いただきました。そして1日目の午後と2日目は、5人が「基礎コース」、2人が「申告書作成コース」に分かれて受講。基礎コースでは、「税務・経理・財務管理の基本」を中心に身近な設例に基づく税務申告書の書き方など税務の基礎を学びました。また、申告書作成コースでは、税務・経理全般についての知識を学び、法人税申告書作成に取り組みました。参加者からは「税制改正について背景と変更のポイントを項目別に簡潔にお話いただき、良く理解できました」「経理担当者の重要性を改めて認識できました」「税務の基本的な考え方をわかりやすく教えていただき理解できました」などの感想が寄せられ、実践に役立つ講習会となりました。

▶基礎コース



◀申告書作成コース

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

お詫び

平成29年4月発行の拓水第726号で下記について表記に誤りがありました。関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

3頁 「平成29年4月1日 JFマリンバンクなぎさ 誕生!!」の下部役員名簿

【経営管理委員会 委員】

⑧ 吉田 俊久 → ⑧ 吉田 俊久

【理事 常務理事統合本部長】

⑧ 濱村 規弘 → ⑧ 濱村 規弘



旬に想う

写真と文
遊方子

百種菜園 (V)

◆ 野菜作りは生半可な気持ちで出来ない所もあるが、鋤を奮って土を起こす気力があれば可能な趣味である。春の作業は耕すことに始まり、寒さの残る内に土を寒風に晒す事が大事だ。春の種蒔きは焦ってはならず、曆上で春になっても、タネの発芽に最適な温かさになるまで待つ事である。一年間に百種類を作るため、量を少しづつとし多種類を選んだ。これを混作や間作を行う事で可能にしたのである。狭い畝に園児が整列したように双葉が揃えば万々歳で、本葉が出たら間引きを行う。間引きした芽のお浸しが好物の一つになっている。

◆ 菜園の隅に植えたサンショウの樹が花をつける。小さな若葉をたくさん伸ばし始めたが、この葉はアゲハの食草だから、無数に幼虫が孵えり無心に蝕んでくれる。蝶が求蜜する姿は嫌いではないから、食うに任せるため実山椒の筈が未だ一度も実らない。アゲハの餌になって仕舞い、特に気にはしていないため、サンショウには迷惑至極な事だろう。若芽を摘み「木の芽和え」を拵えて香りを楽しむ。その一角にユズが仲間に入り生育しており、結実は何年か先になるが、それまで菜園作業が出来たらどうか、達者で動けるかは余り自信がない。

◆ フキとミョウガは芽生えが楽しみな作物で、寒さが残る時期にフキの小さな蕾みが頭を擡げる。花の開く前に摘んで、甘酢に漬けると美味しい一品になる。畑の一角を占めているミョウガも、時期が来れば次々に花芽を延ばす。花の命は非常に短いため、見つけたら直ぐに採取し、これも甘酢漬けにすれば、少し癖のなる味で実にはいい。ラッキョウも甘酢漬けが美味しく、毎年拵えているが、カレーライスの付け合わせには欠かせられない。シャキシャキ感を楽しむには、漬けて一年ほどで食べ切るのが良策だ。植えっ放しで良く育つ作物である。

◆ 菜園に居て作業していると時間の経過がとても速い。燦々とした陽光の下で土と戯れるのは嬉しいが、怪我をせぬよう転ばぬよう努め、一日が無事に終われば善しとしている。野菜作りの誘いを受けた叔父は、私の父親の弟に当たり十歳年上である。足腰の弱りから余り顔を見せなくなつたが、至福の時間を与えてくれた恩人で、何時も感謝している。「毎日が日曜日」というけれど、筆者に曜日は無く、大型連休も土・日の休みも何ら変わらず日常と同じである。青々とした畝に囲まれ、次は何を作るか思索するのが嬉しくて、鋤を振り上げる力があれば何とかなる。作業が重荷になれば野菜作りはお仕舞いで、そして「百種菜園」も幕切れを迎える。そんなに遠い事と思えない此ごろである。

大輪田塾だより

第五管区海上保安本部と漁業共済

4月講座は、11日(火)に水産会館会議室で開講し、塾生、聴講者を含め約20人が集まりました。

「第五管区海上保安本部の業務内容と海難事故について」では第五管区海上保安本部交通部の企画課 庄司晴男課長補佐、航行安全課 園田 慎治指導官・佐々木 正博管理官、安全対策課 留置 浩司調整官から講義がありました。第五管区海上保安本部の概要と業務の内容、来年2月のライフジャケト義務化について、管内での海難事故の発声状況、そして大阪湾海上交通センター(マーチス)が捉えたイカナゴ漁の操業の様子など幅広い内容の講義となりました。続く「漁業共済について」では兵庫県漁業共済組合 福本 好宏参事が講師を務められました。福本参事が、気楽に聞いてほしいと始められた講義は、漁業共済の成り立ち、共済の仕組みに加え、積立ぶらすの内容について、塾生に話しかけるように進みました。質疑応答では、塾生から加入者として気になる点などの質問が寄せられ、関心の高さが伺われました。



全在塾生12名が受講しました



イカナゴ漁船の動きに注目が集まります